

# ベトナム、メコンデルタの沖積層とその層序と堆積システム

## Stratigraphy and sedimentary system of the Alluvium in Mekong River Delta, Vietnam

# 立石 雅昭[1]; メコンデルタ形成過程研究グループ 立石 雅昭[2]

# Masaaki Tateishi[1]; Tateishi Masaaki Research Group of Evolution of Mekong River Delta[2]

[1] 新大・理・地質; [2] -

[1] Dept. Geol., Niigata Univ.; [2] -

メコン川は中国チベット高原に源流を發し、総延長 4880km、流域面積 795,000 平方 km、7つの国を流下して、南シナ海にそそぎ込む、世界有数の大河の1つである。年間平均流量 470 立方 km、年間平均土砂流出量 160mt である。その河口に広がるメコンデルタはカンボジア、ブノンペンを頂点とし、タイ湾西岸を西南端、メコン川支流バイコ川の東支流を東南端とする 49,520 平方 km の広大な平野となっている。

メコンデルタの表層堆積地形は大きく、上部と下部に区分される。上部は自然堤防とその後背湿地の発達によって特徴づけられる河成平野である。他方、下部は砂丘と砂丘間低地の発達によって特徴づけられる浜堤列平野となっている。海岸沿いにはマングローブ林と塩性湿地が広がっている。本研究ではこのデルタのいわゆる沖積層の層序と堆積過程についてボーリングと表層砂丘列の解析結果をもとに検討する。

メコンデルタ東部で掘削した 11 本のコアについての堆積相、ケイソウ、有孔虫、化学組成などの分析と C14 年代測定結果から、最終氷期における開析谷の形状と、それ以降の海水準上昇に伴う溺れ谷形成、高海水準期の前進埋め立て過程は次のように推定される。沖積層には層序上、ならびに堆積環境の変遷上、特にギャップは認められない。

1．開析谷は現在のデルタ東部に河口を有し、現在の下部デルタ南東部では深さ 70m に達する深い谷地形を形成。現在の南部デルタ域に基盤（中部更新統を含む）の高まりが認められる。

2．海面上昇に伴い、この開析谷には上部更新統から下部完新統に属する河成エスチュアリー堆積物が堆積し、埋積する。

3．およそ 76ky の最大海進期にはデルタ全域が浅い海におおわれ、現在の上部デルタ域にデルタフロント及びプロデルタが形成された。

4．高海水準期にはプログラデーションが進行し、およそ 43ky には現在の上部デルタ域に河成平野が発達した。下部デルタ域は浅いデルタフロントからプロデルタとなっていた。この間の堆積作用は潮汐作用が大きな役割を果たしている。

5．3ky 以降、海岸線が長くなるとともに、前進速度が低下し、先端にマングローブ林を伴う浜堤列平野が成長した。この期の堆積作用としては潮汐と波浪作用が混合している。

なお、浜堤列平野を特徴づける 4000 年以降の砂丘列に関する年代学的研究は沿岸砂州ないし海岸砂丘が 4000-3000 年頃には現在のメコン川支流に沿って発達していたことを示している。デルタ堆積物を形成した堆積作用と表層部における地形形成作用との総合的解析によって沖積層の形成過程をよりダイナミックに明らかにすることが求められる。